

共生

奈良県生協連

2023年7月

NO.129



第34期奈良県生協連通常総会



生協組合員理事交流会 かわかみらいふ見学研修会

もくじ

奈良県生協連第34期通常総会……………	1・2	生協組合員理事交流会……………	7・8
会員生協からの報告……………	3・4	Peace Now! 奈良 2023……………	9
退任・就任のご挨拶……………	5	サークルおてんとさん講演会……………	10
奈良県のヒバクシャの声手記集……………	6		

奈良県生協連 第34期 通常総会を開催しました。

2023年6月24日(土) 奈良ロイヤルホテル

6月24日に奈良県生活協同組合連合会第34期通常総会を開催しました。2022年度事業報告・決算関係書類、2023年度事業計画・予算案、役員選任役員報酬議案が可決・承認され、新たな一年のスタートを切りました。新型コロナウイルスの感染拡大前の規模に戻し、ご来賓8名、理事12名、監事2名、代議員23名、オブザーバー48名が出席し奈良県生協連の1年間の取り組みや会員生協の活動報告を共有しました。



奈良県生協連
森宏之会長



司会 岡田昭典理事

森宏之奈良県生協連会長は冒頭の挨拶で「第34期通常総会を迎え、新しい時代に対応した県下の生協運動を一層広げる決意の場にしたいと思います。核兵器は絶対に使わせないように私たちの運動もさらに力を入れ、『奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い(第一集)』を活用し、奈良県で戦争体験、被爆体験を継承できるよう取り組みます」と述べました。

また、ご来賓を代表して佐藤啓参議院議員秘書亀田真悟様、奈良県文化・教育・くらし創造部消費・生活安全課課長中森功征様、奈良県社会福祉協議会常務理事石井裕章様、特定非営利活動法人なら消費者ねっと理事長 北條正崇様からそれぞれお祝いの言葉をいただきました。

ご臨席いただいた来賓の皆様方(順不同)

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ・ 佐藤啓参議院議員秘書 | 亀田真悟様 |
| ・ 奈良県文化・教育・くらし創造部 消費・生活安全課 課長 | 中森功征様 |
| ・ 奈良県文化・教育・くらし創造部 消費・生活安全課 主任主事 | 澤田真樹様 |
| ・ 奈良県社会福祉協議会 常務理事 | 石井裕章様 |
| ・ 特定非営利活動法人 なら消費者ねっと 理事長 | 北條正崇様 |
| ・ 日本生活協同組合連合会 関西地連 事務局 | 嶋岡泰世様 |
| ・ 近畿労働金庫 地域共生推進室長 | 東中健悟様 |
| ・ ワーカーズコープ奈良西事業所 所長 | 藤本治良様 |



佐藤啓参議院議員
亀田真悟秘書



奈良県消費・生活安全課
中森功征課長



奈良県社会福祉協議会
石井裕章常務理事



NPO法人なら消費者ねっと
北條正崇理事長

寄せられた祝電メッセージ 67件 ありがとうございます

全国からいただいたメッセージには、平和と核兵器廃絶に向けた取り組みやSDGsがめざす「誰も取り残さない持続可能な社会」の実現に向けて生協の役割を發揮しようとの呼びかけがありました。

岡田昭典理事の司会進行のもとで、ならコープ代議員の山内美和子さんが議長に選出され議事に入り、議案の提案と各会員生協から活動報告を行いました。代議員27名中、実出席23名、書面議決4名の合計27名の出席で審議・採決が行われ、全議案が賛成多数で可決、承認されました。

最後に奥野裕和副会長は閉会挨拶で、「会員生協は、それぞれの事業分野で生活に関わる重要な役割を担っており、どのような環境変化があったとしても事業を継続する価値、その重要性を改めて認識させられる数年間でした。2030年ビジョンのテーマである『学び・気づき・つながりあい～笑顔あふれる地域共生社会づくり』に向け今後も活動をしっかりと連帯しながら進めてまいります」と述べました。



議長 山内美和子さん



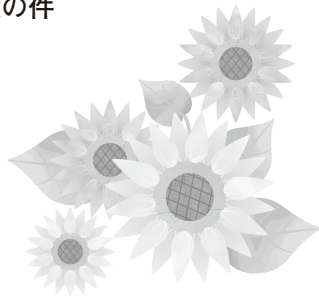
奥野裕和県連副会長

2023年度の役員体制

会 長	森 宏之	員外	理 事	橋本 健太	奈良工業高等専門学校生活協同組合
副会長	奥野 裕和	奈良県労働者共済生活協同組合	理 事	藤本 隼平	奈良女子大学生生活協同組合 奈良教育大学生生活協同組合
専務理事	奥西 武史	員外	理 事	福西 啓次	市民生活協同組合ならコープ
理 事	岡田 昭典	生活協同組合コープ自然派奈良	理 事	福山 明浩	奈良県医療福祉生活協同組合
理 事	城本 壘	生活クラブ生活協同組合	理 事	吉田 由香	市民生活協同組合ならコープ
理 事	谷垣 晴香	奈良教育大学生生活協同組合	監 事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
理 事	鶴谷 将彦	奈良県立大学生生活協同組合	監 事	金光 結香	市民生活協同組合ならコープ

承認された議案

- 第1号議案 2022年度事業報告・決算関係書類承認の件
 第2号議案 2023年度事業計画及び予算案決定の件
 第3号議案 役員選任の件
 第4号議案 役員報酬決定の件



2023年度重点課題

- (1) 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。
- (2) 会員のための連合会として会員の健全な発展を支援します。
- (3) 地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。

お疲れさまでした。
今期で退任される役員



よろしくお祈いします。
新任役員



山本弘志専務理事



三田幸子監事



奥西武史新専務理事



金光結香新監事

会員生協からの報告

奈良県労働者共済生活協同組合

後藤 唯治さん

組合員さんとのつながりを考えながら活動してきた1年でした。その中で2021年60周年を迎え、その時コンセプトに掲げたのが「人と人がつながり、助け合いの心を忘れずに紡いでいこう」でした。今現在も我々職員事務局も含めてそのコンセプトを持ちながら活動を展開しています。コロナウイルス感染症に伴う共済金のお支払いでは我々の予想している以上のお支払いの手続きでご迷惑をおかけしました。今後もこういった自然災害も含めて対応できるようにしていきたいと考えています。また、大規模化する自然災害への備えとして、避難訓練をリモートで行う「体験型防災アトラクション・ザ・リモート」を実施しました。また啓発活動はもちろんですが、生活設計をサポートする「国民ライフサポート」というSNSツールもあります。ぜひまたスマホから参加していただければと思います。



生活クラブ生活協同組合

夏目 有香さん

2022年度の組合活動では、私たちの最優先テーマであるローカルSDGs、地域循環共生圏の実践を推進してきました。産地とつながり、地域で支えあい、私たちのFEC自給ネットワーク、(F)食 (E)エネルギー環境 (C)福祉助けあいの実現に向けて持続可能な地域づくりを目指してきました。活動の中心となった、オンラインでの生産者交流会や、また実際に産地訪問交流で生産者の思いを肌で感じ日ごろの感謝を伝えることができました。一人一人の意思ある選択が社会の課題解決への第一歩となることを信じて、人任せにするのではなく、自ら考え自ら行動するという私たちの理念をもとに組合員活動を推進していきます。コロナ禍で遮断されていた組合員同士の直接会って交流する機会を積極的に作り、顔が見える関係を築きながら消費財の持つ価値を再認識し、利用に結びつけられるような活動を行っていききたいと思います。



奈良県立大学生生活協同組合

鶴谷 将彦さん

奈良県立大学は小さく学生数は600人強ぐらいの大学です。その中でも生協学生委員会が熱心に活動しています。我々教職員も協力して様々な取り組みをしています。コロナ後は生協の職員さんと一緒になって、生協のためにいろいろ考えて取り組んでいます。また、他団体から学生の生活支援として食料支援の取り組みも行っていました。他の団体と連携して取り組んでいくということも、学生にとってはいろいろな社会を知る機会にもつながっていくと思います。今後もまた皆様のご理解、ご協力で長く大学生協を進めていきたいと考えています。



奈良女子大学生生活協同組合

米田 早希さん

2022年度は、コロナ禍で組合員同士がつながる企画を行いました。一言カードを積極的に利用したり、TwitterやInstagramなどSNS発信を積極的に行いました。また調査活動を重視し組合員の健康と安全に関する取り組みを強めました。2021年度なかなか実施できなかった自転車点検会やビューティーヘルスラボ、食生活相談会を対面で春と秋の一回ずつ実施することができました。活動ができるに従って夏祭りの企画、新入生同士が交流するエントランスイブという企画も行えるようになりました。また、SNSの取り組みだけでなく組合員さんに配布する手書きの冊子づくりにも力を入れました。次の学年、またその次の学年が組合員さんのことを考えながら、自分たちも楽しみながら学生委員会の活動を続けていけたらいいなと思います。



奈良教育大学生生活協同組合

浦田 行紘さん

2021年度まではほとんどの活動がオンラインだったものに対して、2022年度から対面で非常に活発な活動となり、学生に寄り添った運営を行うことができたと考えています。夏祭りは付属の小学生に大学に来てもらって子どもたちが楽しみながら学べる機会となりました。ま



た、学内にSDGs17の目標のスタンプを設置しスタンプラリーをしてもらうことによってSDGsを楽しみながら学ぶ企画を実施し、大学の広報からも絶賛いただきました。2023年度に入学した1年生に対して実施した企画は参加率100%となりました。学生委員も80人を超え大規模な企画を並行して多く実施することができました。2023年度は積極的な情報発信によって奈良教育大学内の活動内容の周知に努め、同時に学内などの連携を促進することでより良い大学生活を支える存在になるように活動をしていきます。

奈良工業高等専門学校生活協同組合

明松 龍之介さん
亀岡 優花さん

生協学生同好会の部員は7人で、毎週火曜日の放課後に活動しています。年に数回生協の組合員に対して還元企画を中心に活動をしています。新入生歓迎会、次に自転車点検会を春と秋の2回行い、修理工の方に来ていただいて無料点検や有料修理をしていただきました。また、昨年度は通学路の安全マップの作成を行いました。これは、自転車点検会に来た学生さんに、奈良高専から最寄り駅までの地図を事前に用意しておき、普段通学していて危ないと思う箇所にシールを貼ってもらいました。現在完成に向けて作成中です。8月にはかき氷企画、1月にはタヌロー喫茶、そして今年の3月には、新入生に向けた説明会を開催し、奈良高専生協や学校生活について説明をしました。同好会では主な通学方法や、同好会についてスケジュールなど説明しました。説明会は2日間開催され150人ほどが参加しました。

奈良県医療福祉生活協同組合

関 明子さん



2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた1年となりました。外来患者数は伸び悩み、医療事業は厳しい状況になりましたが、特定健診医療健診の受診が順調に進んだことと、PCR検査数の増加で医療事業収入及び経常剰余金は予算を達成し2022年度の事業計画を達成することができました。生協強化月間には「場づくりと検診で健やかな毎日をしゃべって笑って健康づくり」をテーマに、つながりづくりは健康づくりという視点を多くの方に広く知らせることをめざしました。また、地域と暮らしの相談窓口をさらに広めるとともに、組合員の暮らしと健康を守る医療福祉生協をめざしていきます。2023年度医療費の支払いに困窮する人々の命と健康を守るために無料定額診療事業を開始することになりました。一人暮らしの増加や格差などが深刻化する中、健康づくりと居場所づくりを一層進め人生を楽しく健康に暮らせる地域づくりを進めていきます。

生活協同組合コープ自然派奈良

西村 いずみさん



2022年度は第6次中期計画の2年目にあたり、商品を中心に「ふうど、つながる、みらい、広げる、届ける、伝える」の6つのビジョンに沿った活動をしました。ビジョン達成のため4つの地区クラブと9つのチームが活動しました。ブロック活動を行う地区クラブは組合員同士のつながりの場として地域を中心に活動し、奈良市に2つ大和郡山市と天理市に1つずつ合わせて4つあります。課題活動を行うチームもそれぞれのテーマに基づいて活動しています。また、お米を買ってもらうことで生産者を支えている「田んぼ体験イベント」は15年続けており、今年度初めて有機無農薬栽培にチャレンジすることができました。2022年度は創立20周年特別講演会と歴代理事長のトークセッションを開催しました。また、これまでかかわってくださった方々の思いが詰まった20周年記念誌発行、2023年1月には11月に竣工した新センターのお披露目フェスタを開催しました。

市民生活協同組合ならコープ

細見 多恵子さん
竹本 万里子さん

2022年度は第13次中期計画初年度として「創業理念の学習」「新しい生協への基盤づくり」「人づくりと商品づくり」「環境対策DX推進」「商品事業の再構築」「新型コロナウイルス対応」を方針基盤として取り組みました。10月に発生したサイバーインシデントは、無店舗事業の商品供給を7週間にわたり中止せざるを得なくなり創立以来の最大危機に陥る事態となりました。この間は店舗・無店舗・生活支援部門が連携を図り、買い物が困難な組合員の生活機能を維持することを最優先としながら事業を継続しました。そんな中、徐々にリアルでの学習会や、4年ぶりの産直交流会を開催することができ、対面で感動を共有することの大切さを再認識しました。2023年度は方針に基づきより地域に密着して暮らしのお困りごとや願い事に寄り添うことを事業を通じて、誰も取り残さない安心して暮らせる地域づくりを目指します。

退任あいさつ

2019年から、4年間皆様のご支援をいただきました。あらためて感謝申し上げます。2020年1月に奈良県で新型コロナウイルスの感染第1号が報道され、パンデミックで世の中の暮らしや会員の事業や運営にも大きな影響が出ました。

今まで当たり前できていた会議や企画ができず、不慣れなオンライン運営は当初大変苦勞しました。また、創立30周年の記念事業、奈良県のヒバクシャの声手記集の発行、2030年ビジョンの策定、生協大会、ピースアクション、なら消費者ねっとの適格消費者団体認定の支援などで奈良県生協連として県民や会員の期待に応えるには、どうしたらよいのか試行錯誤の連続でした。

ですが、奈良県生協連にいたからこそ体験できたことが書ききれないほどたくさんありました。学生たちによるピースナウ奈良の取り組みは自分たちで企画し、深めていくそのプロセスと発想は大いに勉強になりました。また、若者応援プロジェクト奈良では困窮した学生の実態を把握することが困難な中でたくさんの方々の協力で食料支援ができました。支援を受けた学生は、今度は機会があれば恩返しをしたいとの思いを返していただき、助け合いの輪の広がりを実感しました。

今年は協同組合のアイデンティティの見直しが検討され、協同組合の期待が高まる中でブラッシュアップされることでしょう。奈良県生協連の2030年ビジョン「学び・気づき・つながりあい～笑顔あふれる地域共生社会づくりをめざします」が前進し、誰もが安心してらせる社会になることを祈っています。

奈良県生協連の活動にかかわる全ての皆様に感謝し、新体制でのさらなる生協運動と事業の発展及び関係各位と会員の皆様の益々のご活躍をお祈りしつつ、退任の挨拶とさせていただきます。



山本 弘志

専務理事就任にあたって

このたび、専務理事に就任しました奥西武史(たけふみ)と申します。

団塊の世代が全員後期高齢者に達する2025年に迫るなかで、フレイルや認知症がすすみ、お買い物や食事づくりはもとより栄養摂取や健康状態も十分ではない報告が増えています。若者のストレス、子育てや教育への不安、収入減少、経済的格差はじめ格差社会の問題があり、くらしの保障や健康と医療、安心してらせる地域づくりが求められます。ICT(情報通信技術)が進化し普及し、便利さの一方で消費者被害など社会問題は深刻になり見えづらくなってきています。困ったときに相談できる人がいること、相手を思いやり寄り添う気持ちが本当に大切だと強く思います。さらにはサイバーリスクへの備えも極めて重要です。わたくしは、ならコープに入協して38年目になりますが、配達現場を経て、商品政策・商品部門、コープきんき事業連合及び新規事業の立ち上げに携わり、店舗事業統括、生活支援・組織広報管掌と、ほとんどの部局を経験させていただきました。組合員のくらしや業務の現場にこそ課題があり、その解決や実現には「何とかしたい」との思いの強さが大切なことを学びました。

奈良県は、人と人、人と地域や物資の往来を通じて共存共榮し、異なる地域の文化の交流がなされ、「たすけあい」の精神が培われてきました。奈良県生協連33年の歩みをふりかえり、原点に立ち返り、各会員生協のそれぞれの良さに磨きをかけつつ、相互の連携と協力を強め、協同の輪をひろげ新たな価値創造をめざします。これまでの経験をいかし、「平和とよりよい生活のために」の取り組み、「たすけあい」の精神である協同組合の価値を会員生協、諸団体のみなさまと一緒に学び・考え・取り組みます。奈良県における生協運動の発展を通じて、地域共生社会づくりをめざし、各会員生協の経営の安定・発展につながるよう精励いたします。ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



奥西 武史

「奈良県のヒバクシャの声 ～地域で継承する被爆者の思い～」

第一集を発行し、継承活動に取り組んでいます。

戦後78年が経過しましたが、これまでに発表された手記や被爆者団体の活動資料が、大切に保管され受け継がれているとはいえません。日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)所属の県組織であった「わかくさの会」は約21年活動されましたが2006年に解散しました。わかくさの会が発行した被爆体験集(全三巻)を原本で収蔵する図書館は、奈良県には存在していません。

奈良県生活協同組合連合会(以下:奈良県生協連)では、創立30周年の記念事業として入谷方直(いりたにまさなお)さん^{*1}を代表に、僅かな手がかりを基に、失われていく貴重な記憶や解散した団体の活動記録の編集委員会を立ち上げました。2022年9月に「奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い～」第一集を発行し、さらに継承する活動を続けています。

4月には奈良県教育委員会のご協力のもと、校長会でこの手記の配布趣旨を説明していただきました。

県内の公立小学校全教員に平和の学習資料として配布させていただくことになりました。また、中学校、高等学校、図書館には各2部ずつお届けしました。この手記集が継承活動の一助になればと取り組んでいます。

*1…入谷方直さんは文化財修理技師で広島市公認被爆体験伝承者として県内の被爆体験の継承をされています。編集委員会の代表を務めていただきました。

奈良県のヒバクシャの声手記集編集委員 上市佳織コープ自然派奈良理事長

被爆者は年々高齢化し、いずれいなくなる。話を聞けるうちにお聞きし、記録に残しておかなければならない。そのことは、分かっていたつもりでした。しかし編集に関わる中で、出版物として発行された書籍ですら原本が残っていない状況、著作権や個人情報保護の観点から資料の譲渡が難しい状況など、記録の継承だけでも想像以上に難しいことを知りました。県内の被爆者と丁寧に関係をつくり、その記憶や思いを継承しようとしている入谷さんの活動をもとに、この手記集を発行できたことが、これからの継承活動にとっての一石となることを願っています。

手記集を届けた各学校の先生がたから
お問い合わせをいただいています。

○中学校(橿原市)

手記集の「被爆者の歩み」に載っている方は、私の親戚だと思ふ。その方に直接お話を聞いたこともある。わかくさの会が発行した体験集にその方の体験も載っているようだ。その体験集がならコープの平和ライブラリーに保管されているということなので見せてほしい。

○小学校(橿原市)

小学校6年生で学習の資料として活用します。被爆体験を聞きたいので秋山勝彦氏をネットで知ったがご存じなら紹介してほしい(6年生の担任から)

○小学校(河合町)

いただいた手記集は、各教室に備えて、修学旅行の時だけでなく生徒の「調べ学習」で活用します。残りを教員の学習のために共有します。

○小学校(天理市)

教員数いただいたが、教職員全体で学習したいのであと3部送ってほしい。



手記集/表紙



手記集/裏表紙



手記集/目次

手記集をご希望の方に、送料(370円)のご負担のみでお送りします。奈良県生協連(後頁参照)までご連絡ください。

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会総会が開催され、奈良の手記集の取り組みを報告しました

5月20日に、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会第11回通常総会が東京主婦会館プラザエフで開催され、奈良県からも生協関係者がオンラインで参加しました。

総会後の活動交流の中で、宮城、岐阜の取り組みとともに、奈良県における手記集の発行とその後の普及の取り組み、手記集を手にとられた先生から寄せられた声を紹介しました。さらに、手記集作成の過程で、わかくさの会の前身である「奈良県原爆被災者の会」が1967年に発行した『奈良県における原爆被災者の実態』を「平和ライブラリー」に寄贈していただいたことも報告しました。奈良からは、ならコープ奥西執行役員(当時)、岡マネジャー、奈良県生協連新田が参加しました。



生協組合員理事交流会 かわかみらいふ見学研修会

梅雨に入り、さらに台風が沖縄に近づいている中でしたが、6月1日は幸いなことに晴れました。4つの会員生協(ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良県医療福祉生協)の組合員理事と監事37名と奈良県生協連事務局5名の合計42名で、大型バスに乗って奈良県川上村の「かわかみらいふ」に、見学研修に行ってきました。



移動スーパー車両

の運営開始、県内初の公設民営ガソリンスタンド「かわかみSS」の営業開始、移動スーパーに看護師及び歯科衛生士が同行し、健康づくり支援を拡充。(2023年3月末ならコープの加入率70.3%、県内加入率市町村2位)

ならコープ宅配事業を村内全域に拡大され、全国初の公共施設(ふれあいセンター)で灯油の販売開始。さらに移動スーパーに看護師・歯科衛生士も同行し、「健康づくり」も開始するなど、活動は全国からも注目され、視察も多いとのこと。



かわかみらいふの吉田さんと
コミュニティナースの梅本さんの
報告を聞く参加者



移動販売車の見学

川上村は、「2045年までの人口減少率、全国ワースト1」と言われた村。

「川上村まち・ひと・しごと総合戦略」を村民や関係者で策定する中で考え出されたのが「小さな拠点づくり協議会」。その協議会を母体に運営主体として「一般社団法人かわかみらいふ」が設立されました。

「川上村ふれあいセンター」に「小さな拠点」を開設し、移動スーパー事業、宅配事業、

コミュニティ・カフェ事業



EV車

の運営開始、県内初の公設民営ガソリンスタンド「かわかみSS」の営業開始、移動スーパーに看護師及び歯科衛生士が同行し、健康づくり支援を拡充。(2023年3月末ならコープの加入率70.3%、県内加入率市町村2位)

「川上村ふれあいセンター」に「小さな拠点」を開設し、移動スーパー事業、宅配事業、コミュニティ・カフェ事業の運営開始、県内初の公設民営ガソリンスタンド「かわかみSS」の営業開始、移動スーパーに看護師及び歯科衛生士が同行し、健康づくり支援を拡充。(2023年3月末ならコープの加入率70.3%、県内加入率市町村2位)

到着するとまず、移動販売車や共同購入の倉庫や村民のための販売所とホールを見学。かわかみらいふの吉田政己さんやコミュニティナースの梅本久美子さんから活動紹介がありました。梅本さんからは、川上村は消防署もなく、救急車の到着が地域によって20分~40分かかるため、少しでも命を救えるのならばと、村民に応急処置の指導を小中学校で実施したり、配達の際に添乗して高齢者の変化を見落とさないなど、村民に寄り添う活動の報告がありました。ならコープの宅配を請け負う若い職員さんも100段の階段を食品の箱を担いで上がることに、初めは愚痴を言っていたものの、最近はやりがい感を持ち始めているとのこと。経営的には苦しいけれど、村民のためには止めるわけにいかないという使命感を吉田さんがお話してくださいました。

組合員理事と監事が5~6人の7グループに分かれて、お弁当を食べた後、グループで話し合い。自己紹介と感想、それぞれが課題と感じていること、協同組合としてできることなどを議論されました。

セッション1 (25分)

自己紹介・感想「かわかみらいふ」「コミュニティナース」の報告を聞いて「どう思ったのか、何を感じたのか」

セッション2 (35分)

地域のこれからのあり方(暮らし方、次世代の自分らしい働き方、地域とのかかわり方)の課題に、生協としてどう取り組んでいくことができるのか

セッション3 (25分)

報告・共有



ワークショップのようす



各テーブルから報告・共有

少子高齢化に伴う人口減少など川上村で今進行していることは、将来日本のどこの地域でも起こりうることで、皆さん真剣に議論されていました。

最後はかわかみらいふの玄関前で記念撮影。奈良県内の4つの生協の組合員理事さん、監事さんは、同じ悩みを共有して同じ方向を向いていることが分かり、仲良くなったとの感想をいただきました。



かわかみらいふの玄関前で記念撮影

アンケートから

・かわかみらいふの取組は近い将来の日本の姿と感じました。我々が寛容で人を思いやる創造性を持つこと、また、そのことを次世代につなげる努力が必要なることを実感しました。

・かわかみらいふの活動を知り、「周りの人に関心を持つ」「丁寧に時間をかけて人と付き合う」「相手のことを思いやる」そんな人としての基本的な関係性の大切さを大事にしているなと感じました。

・コミュニケーションをしっかりと取ることで、気づくこと、それが相手を支えることのきっかけになることには、やはり私たちもしっかり考えて取り組みを進めなければならぬと感じました。

今につなげる平和につながる～笑顔と一緒に～ “Peace Now! 奈良 2023”が開催されました

“Peace Now! 奈良2023”が、6月11日10:00～18:00 奈良教育大学2号棟教室とキャンパスを会場に開催されました。学生委員(実行委員)含め計46名が参加しました。今年は奈良県以外の関西8大学生協からも参加されました。参加者の皆さんが、本企画を通して「知り」、戦争の歴史や現在起こっている問題への関心を「深め」、一人一人が身近なテーマとして「考える」ことができるようになることを願い、「Peace Now! 奈良2023」が開催されました。

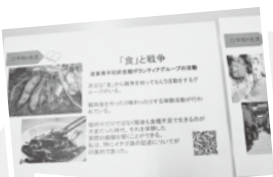
企画内容

◆「ぴーなら図書館」…平和についてのトピックがたくさんある中から、自分の興味のある平和や面白い観点だと思っただけの平和を自分たちで探しに行きます。これは身近な平和について深く知る時間になります。今年のテーマは、平和×「娯楽」「生活」「自然」「教育」「観光」「芸術」でした。

◆フィールドワーク…奈良教育大学とその周辺にある戦跡を見て回ります。実際に見て回ることで、当時の様子や時代背景に思いを寄せて、現代の平和のあり方を感じる時間となります。また、実際にあった歴史を見て感じることで平和とは何かを考える時間となります。主な戦跡を、①「吉備塚」「糧まつ倉庫」②「酒保(軍隊の駐屯地内に設けられた日用品・嗜好品を提供した売店)への階段」「野仏集場」③「営庭」「弾薬庫」④「奈良聯隊碑」の4つのコーナーにわけ、グループごとに回り実行委員が分担して各戦跡の前で説明しました。

◆アウトプット…「Peace Now! 奈良2023」の企画を通して、学んだことや感じたことなどをグループで、過去と現在と未来との三つにまとめる作業を通して、お互いの考えをより深めました。

アウトプットでは、 以下のような感想等が出されました。



・多方面から情報を自分で分析する。伝えられたことをそのままのみにしない。

・メディアに惑わされない。情報の取捨選択を行う。

・戦争を風化させない。他人事と思わないようにする。⇒ぴーならの取り組みを今後も続けるようにする。

・第2次世界大戦勃発。世界で初めて核兵器を実戦に投入。⇒世界で唯一の被爆国として訴え続けていく。

・広島サミットの課題(広島ビジョン)核抑止が肯定されたが核がなくならなければ世界の平和は実現しない。広島サミットで何を話されたのかしっかり振り返る。

最後に、フィールドワークを指導していただいている吉川好胤先生よしなほが以下のような感想を話されました。

「このように和やかに対話して、平和について優しくとらえなおすことができたと感じた。感動した」「これで7回目になるが、去年この取り組みから『奈良教育大学戦争遺構保存会』の結成につながった。地域の人にも学生全体にも知らせていこうと話合っている」

・今回のセミナーのような平和について話し合いのできる場も、自分の学校でも設けたい。

・ぴーならでやっているように戦争の過去だけを知るのではなく、話し合って考える場を設けるのが良いと思う。

・平和について学んだときそれを学んだだけにすることなく、学んで得たことを残していく必要があると感じた。



第1回生協・行政協議会を開催しました。

2023年度第1回生協・行政協議会を5月19日に開催し、奈良県消費・生活安全課から中森功征課長、澤田真樹主任主事及び奈良県生協連から17名が参加しました。

はじめに奈良県から課の体制と所管業務、今年度の事業の特徴について説明がありました。奈良県生協連から年度方針の報告に続き、参加者から「相談窓口及び相談員の現状と課題」「見守りネットワークの現状と今後の展望」「地域の見守り活動(夕食宅配弁当)」「認証制度(安心して利用できる飲食店)」などの質問や意見が出されました。安心して暮らせる地域社会づくりをめざした県行政と生協との連携に向け、互いに理解を深めることができました。



講演会 北海道の牛乳は放牧の牛から 絞られていると聞いていましたが…

—北の酪農と消費者との繋がりから見てくる日本社会の問題は？—

奈良県生協連の友誼団体である「NPO法人サークルおてんとさん」の総会記念講演会が5月25日の午後、奈良市はぐくみセンターで開催され、14名が参加されました。

講師は元建設省河川局長で行基研究家の尾田栄章さん。おてんとさんでは、尾田さんが現役の時に関わられた「水問題とSDGs」や退任後に研究されている「行基と長屋王の時代～律令国家・日本の基盤はどのように築かれたのか?」のテーマで講演をしていただいています。今回は、尾田さんが水問題から北海道の酪農家を支援する活動をされていることから、私たち消費者も心を痛めている「酪農家の現状」をお聞きしようとお願ひされたそうです。



牛乳の飲み比べをすすめる尾田さん



会場の様子

最初に、牛乳2種類を2つのコップに分けて、飲み比べをしました。1つはあっさりとしたミルクの味があるもの。もう一つは飲み慣れた味。尾田さんは、低温殺菌牛乳と高温で殺菌した牛乳だと解説されました。季節で味が変わることこそ自然物の証明ではないかと言われました。今の牛乳は工業製品のような食品に替わってきてしまっている。

北海道オコッペ村の牛乳は放牧で育てられた牛の乳で作られた低温殺菌牛乳で1リットル700円以上の単価だという。

もう一つは大手メーカーの牛乳で高温殺菌で作られ1リットル200円ほど。

現在は飼料も外国から輸入し高騰しており設備を動かす燃料費や電気代も高騰しているが、価格転嫁ができない状況。北海道の酪農家の危機的な状況やそこから見える日本の農業政策についてのお話がありました。「情報の共有」と「人間の交流」で生産者と消費者との繋がりを今こそ再構築すべきとの話され、参加者と活発な意見交換がされました。

おてんとさんの会員は、ならコープで「産直牛乳」という商品を作ってきた関係者も多いので、大いに話が盛り上がりました。



今の日本の農業政策は全国一律。地域に適した方針に切り替え、いい商品をつくる生産者を消費者が後押しできないかと問題提起

県連日誌

4月

- 3日(月) 新年度あいさつ訪問(県庁、JAならけん)
- 5日(水) 日本生協連関西地連運営委員会/地区別総会議案検討会議
- 18日(火) ピースアクションをすすめる会
- 25日(火) なら消費者ねっと理事会

5月

- 2日(火) 奈良県協同組合連絡協議会事務局会議
- 9日(火) 期末監事監査
- 16日(火) なら消費者ねっと理事会
- 18日(木) 奈良教育大学生協通常総代会
- 18日(木) 奈良工業高等専門学校生協通常総会
- 19日(金) 第1回生協・行政協議会
- 19日(金) 第7回奈良県生協連理事会
- 26日(金) 奈良女子大学生協通常総代会
- 30日(火) 奈良県立大学生協通常総会

6月

- 1日(木) 生協組合員理事交流会(かわかみらいふ訪問)
- 10日(土) なら消費者ねっと通常総会
- 11日(日) Peace Now奈良! 2023
- 12日(月) 生活クラブ生協通常総代会
- 13日(火) ならコープ通常総代会
- 16日(金) 日本生協連通常総会
- 16日(金) コープ自然派奈良通常総代会
- 17日(土) 奈良県医療福祉生協通常総代会
- 24日(土) 第34期奈良県生協連通常総会・第1回奈良県生協連理事会
- 26日(月) 通常総会終了あいさつ(県庁・JA・県林連・議員)

予告 ピースアクションinなら2023 国連原爆展 in Nara

2022年8月のNPT再検討会議に合わせて開催した「国連原爆展 2020ヒロシマ・ナガサキから75年：ヒバクシャ〜核兵器廃絶に取り組む勇気ある人々」を奈良で開催します。

日時：10月20日(金) 9:30～21:00
10月21日(土) 9:30～17:00

会場：奈良県橿原文化会館展示室

参加費：無料

主催：ピースアクションをすすめる会、奈良県生活協同組合連合会

はじめまして、4月1日より奈良県生協連事務局担当として着任いたしました。同時になら消費者ねっと支援担当に任せられたので、学ばなければならぬ事が多く目が回りそうな日々を過ごしております。幸いなことに私の身の回りには経験・知識ともに豊富な諸先輩方がたくさんおられるのでしっかりと学び、身につけられるよう頑張っておりますのでよろしくをお願いします。



事務局担当 三谷 豊

編集後記

7月から新しい職場にチャレンジすることになり、変化対応を「楽しい」と思うか「大変だ」と思うかは気持ちの持ちようです。若い頃のようにはいきませんが今までの経験を活かせるようにがんばります (弘)

少し前は、「ペライチ」「がっちゃんこ」「よしなに」、最近は「蛙化現象」「かわちい」「うちゅくしい」が話題になった。前者は「おっさんビジネス用語」、後者は「Z世代流行語」だそう。私はもちろん、前者の方。でもわからないものや意味を間違って使っていた用語もあった。 (和)

通勤途上で道端の植物観察をしている。昨年初めて見つけた「セイヨウヒキヨモギ」に今年も出会った。半寄生1年草ヨーロッパ西部原産の帰化植物。初めて見る植物にワクワク。これが私の趣味。 (順)

線状降水帯という言葉をよく聞き、奈良県でも今年6月に発生した時は驚きました。激しくなる気象に備えはきつと必要なんだろうな？ 食料・水・避難場所も確認しないと・・・ (佳)